

歴史探訪

クラブ!

其の
195

History Inquiry Club



文化財課 ☎22-1720
(博物館) FAX 22-2028

城宝寺 渡辺華山霊牌堂

三河田原駅から西方へと向かう道は、寺が4つ並び、「寺下通り」と呼ばれています。駅に最も近い寺が城宝寺で、渡辺華山先生の墓所や県指定史跡の古墳があります。山門をくぐった正面の本堂左奥に昭和30年(1955年)に建てられた華山霊牌堂があります。

霊牌堂建設にあたっては「田原町華山先生遺徳顕彰会」が発足し、名誉総裁に内閣総理大臣吉田茂、名

誉会長に愛知県知事桑原幹根、会長に田原町長石黒利平、副会長に伊奈森太郎(歴史探訪クラブ103で紹介)が就任しました。この顕彰会は、池ノ原公園の幽居邸復原や戦時中に供出した華山銅像の再建も実施しました。完成前の2月には渡辺華山関係資料24点が重要文化財に指定され、戦後の華山顕彰の記念すべき年になりました。



霊牌堂には板の間の前室と30畳の外陣と位牌が安置される須弥壇のある内陣があります。外陣の壁には展示ケースがあり、華山先生の検死の際、田原藩医の中村半節と中村亦寿が記録した書面を掛軸装にした資料や城宝寺に伝わった三宅友信(藩主隠居格、華山蘭学研究のパートナー、1806~1886年)や華山の二男、渡辺小華(1835~1887



▲渡辺華山霊牌堂天井画

年)の作品が展示されています。霊牌堂の格天井には、華山のひ孫弟子にあたる画家、松林桂月(1876~1963年)や同門で妻の松林雪貞(1878~1969年)らが作品を寄贈しています。

また、桂月は尊敬する華山の位牌を安置する建物であるので、全国の名立たる日本画家、児玉希望、奥田元宋や佐藤太清などに天井画の揮毫を依頼するため、紹介状で呼び掛けます。天井画のレイアウトは、豊橋出身で、桂月の弟子でもあった白井烟岳(1894~1976年)が寺に宿泊し、行いました。天井

画ばかりでなく、入口や横の壁には、渥美半島出身でもある鈴木翠軒(1889~1976年)や手島右卿、西川寧など14人の書家も作品を寄贈しました。天井画は91cm四方の格子内に、直径81cmの円窓型の紙に描かれ、手前の板の間に18図、堂内に55図、計73図が飾られています。桂月の日記には「城宝寺の先生霊牌堂の入仏式に参列す。格天井七十二の寄付画は、予の名に於て、東都、京都、大阪、名古屋の諸画家の手によって成るもの。此の超画派の寄贈は如何に先生の遺徳の多きかを想ふに足るものであると思ふ。」「予の一生の光栄、因縁を思ひて感激の外なし。」「椿(椿山、(野口) 幽谷二翁にもなき真に榮ある御縁に涙さへ浮かべり。」と記しています。

昨秋には、田原市博物館で渡辺華山先生の特別展が開催され、全国から博物館へ多くの来館者がありました。本市では、明治時代から続く華山顕彰を次の世代へも続けるべく生涯学習の基本理念として「ふるさとに学び 人が輝く 田原の人づくりに」をキーワードに努力してまいります。(鈴木)